

Free Paper For Gans Junkies

Design by ULTRAS MATSUMOTO

MATSUMOTO YAMAGA F.C.

VS JAPAN Soccer College

Sunday 3 August

08 HFL Division 1 week 13

「取り戻した一体感。ホームでも見せよう！」

先週の金沢戦は、僕らサポーターとしても特別な狙いを持って臨んだ試合だった。ホームチームのツエーゲン金沢はこの試合を「ツエーゲンカーニバル08」と銘打って、観客1万人の動員計画を初め、試合後の花火大会とのコラボレーションなど、イベントもいくつか用意してくる気合の入れようだった。このまま黙って見ていれば山雅史上初というほどのアウェイ状態になるのは明白。という訳で、会場を少しでも山雅の空気にするために、試合前からガンガン仕掛けた。会場入りする時は旗を振り回し歌いながら大行進。選手紹介ではアルウィンでもおなじみの「Battle without honor or humanity」をBGMに、元DJがいつもの調子でスタメンを発表。そして試合直前には「赤」を飲むということでアセロラジュースを飲み氣勢を上げる。その他にも一人ひとりがチームを後押しすべく、気合を入れて臨んだ。

その甲斐あってか、その日の山雅はこれまでとは何か違う雰囲気を感じていた。守備にしても攻撃にしても、いつもよりも迷い無く思い切ったように見えたし、何よりチーム全体が一つの統一された意思のもと戦っているように感じた。試合展開においても、山雅は常に先手を打ち続けた。ホーム石川戦で5ゴールという大活躍を見せた柿本がこの日もヘディングで先制弾。その後、奈良のゴールで追いつかれて嫌な空気になるかと思いきや、再三良い動きを見せていた今井が角度が無いところから決めて2-1でリード。後半に入って金沢のロングスローからオウンゴールで追いつかれたものの、また更に川田が裏に抜け出して冷静に決めて勝ち越し。何度追いつかれて嫌な空気になろうと、何度も突き放すという気迫を選手がピッチ上で体現する。そして、サポーターもその熱に引っ張られ、より熱狂的な声援を送る。クラブ全体で気持ちが入るときのゲームは、ピッチとスタンドの熱がお互いを高めあっていく感覚があるが、この日はまさにそれを感じられたと思う。そして山雅は金沢を突き放す。この日絶好調の今井の突破から高沢が決めて2点差。試合終了間際には交代で入った小澤がカウンターから決めて5-2に。この時はもうみんなでお祭り騒ぎのような状態だった。そして試合後、勝ち越しのゴールを決めた川田が拡声器を持ってサポーターに挨拶をする一幕があった。「JFLに絶対昇格するので、応援よろしくお願いします！」と。そう、JFLへの挑戦はまだ終わっていない。確かにリーグで金沢に勝っても、それが昇格につながる訳では無いというのが実情である。しかし、それでもこの日の勝利は大きいと感じた。なぜなら、選手もサポーターも、一丸となって掴んだ勝利であったからだ。この勝利はチームにとって大きな自信になる。この戦い方を続けていければ、まだまだ昇格の目はある。そう言えるようなゲームだった。

さあ、JSC戦である。相手は前節リーグ首位だった長野を倒し、首位に立っている、今最も北信越で戦いにくい相手と考えて良いだろう。しかし、山雅が前節見せたような戦いが出来れば、JSC撃破は十分有り得る。そのためには、選手ももちろんそうだが、我々サポーターも気持ちを高め、ゲームを熱くしていくことが重要だ。サポーターは選手の気持ちにしか作用できないが、気持ちに作用できるからこそ、サポーターがいる意味がある。アルウィンを熱く盛り上げよう。ここで勝って勢いを実力にし、その先にぶつかるとだ。

こんだけ待たせたんだからもっともっと暴れようぜ！ さあ、行こう！

【written by ようへい】

「愛してる」の言葉を。

散々やきもきさせてくれた松本山雅FCのお歴々、並びに、今日「ULTRA STYLE」を手にとってくれた、全ての皆様へ——。

8月3日、2008年北信越リーグ、ホーム最終戦。早いものです。ホーム7試合なんて、本当あっ！ という間ですよ。この一年、僕等は何度も眼前に刃を突き付けられてきました。誰が呼んだか「北信越リーグ4強」から取り残されて、一時は降格争いに片足を入れそうになって……。

正直言えば、こんな経験は絶対にしなくなかった。しかし、事実は事実として受け入れなければなりません。そうでなければ、僕等は同じ過ちを繰り返すでしょうから。優勝戦線から早々と脱落したチームに対して、ぶつぶつと愚痴を呟いても、それでも懲りずにアルウィンに足を運んでしまう、「お馬鹿さん」の貴方。……間違いなく、貴方は僕等の仲間です。

先週土曜の夜は、「3強」の一角、ツエーゲン金沢に大勝。西部緑地の夜を「無念のカーニバル」に染めて、ちょっとだけ進歩が見えたかな？ 中盤の選手の動きがスムーズになり、皆がゴール前に顔を出すようになった。これは大きな進歩。まだまだポテンシャルの一端しか見えていないとは思いますが、全社枠での地域リーグ決勝出場に、あとは全部勝つしかない、という状況です。

今日の相手は、JAPANサッカーカレッジ。もう説明するまでもありません。僕等はこのチームに何度悔しい思いをさせられてきたことでしょう。昨年のリーグ最終戦。僕等は聖籠町に乗り込み、リーグ制覇を果たしました。あの最高の瞬間は皆の脳裏に焼き付いているはずですよ。

しかし、あの試合はドロー。もしかしたら現状は、「JSCに勝てていないのに、JFL昇格なんてふざけてる！」という、神様の与えてくれた試練なのかも知れませんね。許して下さい、って感じですけど。吉澤英生監督は、この試合を迎えるにあたり、「リベンジ」という表現を使いました。それならば、僕等も「リベンジ」です。勝ちましょう、今度こそ。

ホーム最終戦。この日のために、日々練習に勤しむ選手・監督・コーチ、「サッカー文化」のために尽力を惜しまぬスポンサー様各位、多くのイベントを計画したボランティア「TEAM-Vamos」、12番目の選手のファン・サポーターの皆様……。多くの人の「夢」が積み重ねられてこの日々があることを、今日だけは思い出してみたいと思います。

全ての皆様に、「愛してる」の言葉を。

【written by sapo】